



豊中市議木村真さんを講師に「森友疑惑を語る」集い。前理事長夫妻の逮捕で幕引きは許さないと多くの市民が熱い報告に聞き入りました。(8/3 市民会館)

平和が いちばん

2017年 8月15日
第 122 号
平和で豊かな枚方を
市民みんなで作る会

「森友問題」究明をなぜ否決？

6月市議会の最終日(6/26)、市長提案の条例関係と市民からの請願、議員提出の意見書の採決がそれぞれ行われました。請願は「図書館分館(複合施設6館)への指定管理者制度導入の可否について慎重に判断することを求める」ものでした。この請願については文教委員会(6/16)で否決されていましたが、本会議でも賛成・反対の議論が交わされました。「慎重に判断せよ」との請願に賛成の意見は「先行導入した2館(さだ・牧野)の検証をきっちり行うべきだ」を要旨に、制度導入で経費縮減、効率化になっていない実態が追及されました。またこれから実施される4館(楠葉・御殿山・津田・菅原)は建物構造上「窓口一本化」が不可能であり、市長のいう運営民営化の利点の一つが破綻したことも市民の前に明らかにされました。賛否の討論で出された見解は、今後図書館や市民センターの職員と市民の協働での監視と検証が必要です。

また最終日には議員から提出された8本の「意見書」も議題にあがりました。「ペット霊園に関する法整備を」(可決)や「森友学園問題の徹底究明を」(否決)などの意見書です。それぞれ提案した議員が意見書本文を読み上げて提案理由とします。提案後、議場では質問もなく賛否の意見表明もなく採決に移ります。傍聴する市民はこの「スムーズな」進行に納得ができません。賛否の態度表明を迫られる議員は内容をしっかりと受け止めているのでしょうか? 例えば「森友問題」は府下の自治体で起こった事態として「徹底究明」が当然であり、それに何故反対するのかよくわかりません。

民主主義の基本はまず議論です。議論を省略する市議会は見ることができません。この間の国会審議に苛立ちと不信感を募らせている市民は多いでしょう。国会を他山の石として、市民の前で討論し、熟議する市議会への脱皮を求めます。

眞言

いまそこにある危機

戸田ひさ子

「森友疑惑」広宣の先端を切り開いた木村真豊中市議の講演会に参加した。

講師である木村議員は市井の人々が想像する「議員先生様」とは違う、普通の気さくな青年だった。さすが市民派を謳う議員だと妙な親近感を覚える。

しかしこの青年こそ、情報公開訴訟、刑事告発、街宣に集いと、怒涛の闘いを展開した結果、この巨悪を広く世間へ知らしめた、その人なのでした。

親近感と敬意を抱きつつの講演で次々と驚愕の真実(事実?)が明らかにされていく。

よく並列に語られる加計問題と森友問題には違いがあり、加計は政治屋との友達関係的な個人的便宜が主原因で、森友は現政権が欲求するナショナリズム実現のための教育を構築せんとする政府の意向が強く働いた結果らしい。

講演内で公表された森友副園長・籠池諄子の手紙。善悪の是非は別として「悪」の

象徴として韓国人を例えたり、とんでもない文章が恥ずかしくもなく、堂々たる下手な筆文字で書かれている。こんな人物がナンバー2に玉座するレイシズム・ヘイト養成校を積極支援するのが安倍政権であり、この国の意向を端的に示している一例と言えよう。

また、森友・籠池氏は詐欺容疑で拘束されたが、関与して当然の維新・松井は強く追求されない、もちろん安倍は逃げ切りを狙っている。尻尾切りを疑う余地は無い。「(国有地を)買う側としては出来る限り安く」は当然の心理であり、「真の悪は、それを許可・便宜した国や自治体にある」という木村議員の論は至極当然であろう。

未精算の大日本帝国の怨念に、新世代妄想系国粹主義(ネトウヨ・日本凄いよ派)が絶妙の契機で融合し勢いに乗る今、この危機は想像以上に切迫した状況であり、「歴史は繰り返す」を阻止する方法が、日本国憲法十二条に書いてあるなあ、と呑気に考える次第であります。

ホッと
タイム

内閣府交渉 職員の対応に怒り！ 松田久子



7月28日に上京し、私が代表を務める「戦争法廃止 憲法変えるな！ 沖縄新基地建設中止 枚方・交野実行委員会」がこの間、街頭や地域で集めて来た『安倍政権の即時退陣を求める緊急署名』を内閣府に提出してきました。2回目の提出ですが今回持参した1117筆を合わせると、合計2194筆（全体では23694筆）になります。署名に御協力いただいたみなさんには、この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

この行動は「平和と民主主義をめざす全国交歓会」の呼びかけで行われた「ワンデーアクション」（企業・省庁交渉）の一環としての取り組みでした。ちょうど、国会閉会中審査が行われている時期でもあり、霞が関付近の警備はいつもより多い気がしました。加計学園問題で、文科省と内閣府を巡ってのやりとりが問題になっている中、私たちと内閣府との交渉はとてもタイムリーでした。

内閣府側からは職員一人だけでしたが、そして直接の担当者ではなく個人的な意見だと何回も言いながら「文科省から出てきた文書は、メモの程度で信用できない。内閣府では、メモは取っていない。メモや文書がなくても問題ではない」と平然と話していました。「担当者には伝える」との対応でしたが、私は文科省が文書で出していることに対して、何も客観的な証拠を示さず口頭だけで否定する手法というかやり方に改めて怒りを感じます。

この間の国会での議論を聞いて腹立たしく思っています。野党の追及に対して、ウソと開き直りと恫喝のような答弁、さらに具合が悪くなれば「記憶にない、記録がない」と逃げる。この首相や閣僚の「隠蔽体質」を職員が真似ているとしか思えません。交渉する私たちにも国民にも真面目に向き合おうとしない…森友、加計学園の真相究明の幕引きは、絶対させてはなりません。

手塚たかひろ 議員日誌



+7月23日 反原発自治体議員・市民連盟関西ブロック発足の集い 関西の自治体議員と市民が共同して若狭の原発再稼働反対のために立ち上げた会で、私も呼びかけ人として参加。関西電力は高浜3, 4号機に続き大飯3, 4号機、さらに40年以上の老朽化した高浜1, 2号機の再稼働も目論んでいる。今後、①大飯原発の再稼働反対 ②原発立地自治体・四国4県・福島県の自治体議員・市民との連携を強める ③自治体から原発に頼らない取り組みを進める、ことなどを確認した。山崎隆敏元越前町議は「原発は立地自治体の振興につながっていない」ことを具体的な数字で示された。木幡ますみ福島県大熊町議は、政府は避難解除をして住民の帰還を促しているが、放射線量が高い状況が続く住民が戻れる状況でないことが報告された。原発は廃止だ。

7月29日 香里ヶ丘図書館建設設計業者選定会議公開ヒヤリング 3社がプレゼンテーション。いずれの案でも中央公園の自然が壊されそう。図書館だけの問題ではない。中央公園の緑、自然保護の視点を大事にした地域に根差した図書館が必要だ。基本設計が決まるまで待たず、もっと地域住民の声を聞くべきだ。言葉だけでなく、本当に「市民との協働」をめざすのか市長の姿勢が問われている。

8月4日 「野党統一候補をめざす市民の集い」に参加 大阪市内エル大阪で開催され、「安倍、自公政治NO」の市民280名が参加。民進・共産・社民・自由4野党の代表も参加。先の参議院選挙では、31の一人区すべてで野党共闘が実現し11区で勝利。来たる衆議院選挙、大阪19区全部で野党共闘を市民の力で作り出すスタートの集い。すでに7つの地域で野党共闘を目指す市民の集まりができています。記念講演で佐高信氏は「違いをあげつらうのではなく、共通点を大事する」ことを強調された。枚方でも野党共闘を実現したい。

7月19日 7月分議員報酬から217,400円を大阪法務局に供託

〒573-0027

枚方市大垣内町
2丁目8-27
シンエービル別館A
市民の広場“ひこばえ”

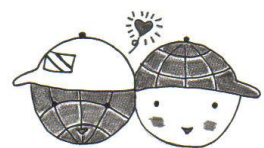
TEL&FAX
072-846-8780

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 黒田 薫（平和都市枚方を考える市民の会）
鈴木めぐみ（親と子のリズム遊び講師）
奥村 秀二（弁護士）
おおた幸世（枚方市平和無防備条例を実現する会）
事務局 手塚 隆寛（枚方市会議員）
スタッフ 松田 久子（「すずらんの集い」代表）

メールアドレス：hiratkatasiminokai@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://hiratkatasiminokai.jimdo.com/>



「会」のシンボルマーク
塔本賢一さん作